



発行

(社福) 南足柄市社会福祉協議会
(ボランティアセンター)

神奈川県南足柄市関本403番地2 ↓HPはコチラ
TEL 0465 - 72 - 2299
FAX 0465 - 74 - 3276

E-mail minamivc@muse.ocn.ne.jp

HP <http://www.minamisakyoku.or.jp/>

FB <https://www.facebook.com/minamisakyoku/>



南足柄市社会福祉協議会

ボランティアセンター

かわら版

再会を仲間とともに！



ボランティアグループが運営するサロンが、活動を再開しています。今回は、**市内の方ならどなたでも大歓迎！！**
「縁側みなみ」についてご紹介します。

日時：第1木曜日
10時～
場所：りんどう会館
3階大会議室
参加費：300円



やすだ みどり
保田 美登里さん
(縁側みなみ代表)

《元氣になってほしい》

縁側でお茶を飲むような気軽さで、“ワイワイガヤガヤ”できたらと思っ
て活動しています。「話が来て良かった」と帰ってもらえたら嬉しいで
す。

《どんな人も気兼ねなく》

「他の参加者に迷惑がかかる」などと考えず、「自分が出来なくても誰
かがやってくれる」と思って、気兼ねなく参加してほしい。サロンには
足腰が弱い人や耳の聞こえない人、目が見えにくい人も参加しています。
誰でもウェルカムです。

《サロンへの思い》

2月の休止以降なかなか活動ができず、参加者の体力が低下して来
られなくなってしまうことが心配でした。全員ワクチン接種を終えたの
で、活動再開に踏み切りました。参加者に再開の連絡をした際に「やっ
た！始まるのね、待っていたわ！」と喜んでくれて、嬉しかったです。

《再開の工夫》

コロナ禍前は飲み物を自分で作って飲んでいたのですが、再開にあ
たり1人ずつペットボトルで渡しています。お菓子も小袋に分けて配っ
ています。

縁 あって
が んばる仲間
わ いわいと
み んなで
な かよく
み らいまで



サロンには子育て世
代やお孫さんの参加
があり、世代間交流
の場にもなっていま
す。(令和元年度の様子)

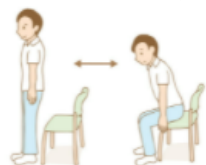


保田代表考案！スッキリストレッチ

①椅子に座って
片足を挙げて、
足首を上下に動
かす。

②椅子に座ったり、立っ
たりしてスクワット。(机
で支えて立っても良い)

③手を肩に置き
て腕を回す。顔の
前で肘が当たる
ように動かす。



カレンダー付の塗り絵で
次回の開催日をお知らせ。
自分で塗って持ち帰ります。

※サロンへ参加希望される場合は、ボランティアセンターへ連絡
ください。友人や近所の方を誘っての参加もお待ちしております。

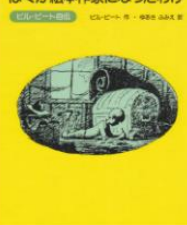
おすすめ本のコーナー

今号では、大人向けの本をご紹介します。動き出すパワーをくれるかもしれません。

教えてくれた人 “四つ葉の会 おはなし会” のみなさん

(劇団ぽぽ・おはなしぽけっと・おはなしサークルりぼん・おはなし青い鳥・おはなしサークル「あのね」・おはなしビスケット)

ぼくが絵本作家になったわけ



『ぼくが絵本作家になったわけ』

作：ビル・ピート (自伝)

訳：ゆあさふみえ

出版社：あすなろ書房

ディズニーワールドが好きな人、必
読！ピノキオやピーターパンを手掛け
た絵本作家。全ページイラスト入りで、
なじみのイラストもたくさん出てきます。

明日の友



隔月総合雑誌「明日の友」

出版社：婦人の友社

生活を愛するあなたへ。衣食住・家
計・健康などバラエティ豊かな内容
で、いろいろなことが学べる。高齢な方
にも読みやすい総合雑誌です。

ボランティアとわたし。

【郷土資料館史の会】の一員として竹のオブジェを制作。
ボランティア仲間から「竹の“プロ”」と呼ばれる小澤公生
会長（三竹地域福祉会）を取材させていただきました。



市郷土資料館（広町）
の開館30周年記念感
謝祭「ポップス尺八の
調べ」の夕暮れの舞台
を幻想的に彩った竹
のオブジェ

「竹の“プロ”」が伝えたいのはナイフの使い方だけではありません

子どもの頃は、肥後守（ひごのかみ）というナイフを片手に、小学校の行き帰りなどに、竹で遊
び道具を作っていました。それが当たり前の毎日でした。

岡本小学校を会場に開催してきた「子ども祭り」で、子どもたちと一緒に竹とんぼや紙鉄砲
を作るという活動を20年以上続けました。ナイフでちょっと指を切る、紙や草で指を切ると痛い
といった感覚を、自然のなかで体験することは、とても大切だと思っています。自分の痛み、相手
の痛みがわかれば、そう簡単に誰かに暴力をふるったりはしないのではないのでしょうか。

また、手作りの竹の一輪挿しを、正月三が日に作り、プレゼントしてきました。喜んでもらうのが
嬉しい。喜ぶ顔が見たくて続けています。

子どもに「問いかける」ことを大切にしたい

おはなしサークル「劇団ぽぽ」にも
所属しています。仕事で市内の読み聞かせサークルの立上げや平和映画会の運営に関わって
いくなかで、縁のあった「劇団ぽぽ」に声をかけられて入りました。（「声がいいからスカウトした
のよ!」と代表の岸スズ子さんが笑いながら教えてくれました。）童話や昔話は案外残酷です。でも、
それを伝えることで、子どもに「問い」を残し、感性が育ってくれたらいいなあと思っています。



おざわ きみお
小澤 公生さん

（三竹在住）

小澤さんにとっての
ボランティア活動とは？

「After you」という言葉
が好きなんです。「何か
をしてあげる」ではなく、
「お先にどうぞ」という
気持ちで人に接すること
も、ボランティア活動の
根っこにあります。



密着取材

竹のオブジェができるまで

準備
1日目

小澤さんが伐採してきた17本の
三竹地域の竹を「郷土資料
館史の会」のメンバー3名で
それぞれのパーツに切り分けます。柔らかい
真竹（まだけ）は半分に切って、さらに半
分に…竹の特性を活かし、細くて、しなる
パーツにしていきます。堅い孟宗竹（もう
そうちく）の土台に細いパーツを差し込む
ための小さな穴をあけます。ドリルとノミな
どの工具をうまく使い、絶妙のコンビネー
ションで作業を進めました。

準備
2日目

パーツを使って自由に形にしていきま
す。本日は、さらにメンバーが3名増え
ました。活動歴は12年以上になると
いう小澤さんをはじめ、お仕事を通じ
て知り合っていた方も多いため、気心
の知れた会話が飛び交いました。「もっと上
にいくように差してよ」「てっちゃん、のこぎり」「こ
こにも穴をあけてよ」「さすが!」。芸術的センス
やアイデア抜群の方…それぞれの得意分野を
生かし、見事な竹のオブジェが完成!

※オブジェは郷土資料館の中庭に3月31日まで
展示されています!



地域のはなし

三竹地域では、コロナ禍のなか、開催していた「おはなし会」は中止にしています。皆さんがどう
しているか気になっている時、会員の久保田聖子さんが、「高齢者宅を訪問して、元気な様子を確認
しながら、“なぞなぞ”や“早口ことば”の手作り冊子を配付する」ことを提案してくれました。
集いが再開できるまで続けていく予定です。

地域福祉活動情報

～地域福祉研修会「コロナで、再発見!」DVD完成!～

3団体の事例発表を行いました。本研修会のDVDは社協で貸出しもしくはHP内
YouTubeリンクからご覧いただけます。



狩野自治会
前自治会長 奥津 憲仁さん

コロナで自治会行事は
全滅。台風19号が15年
ぶりの防災規程見直し
を促してくれました。災
害はない方がいい。
でもここからが本当の
スタートです。



駒形新宿地域福祉会
会長 長山 誠一さん

一人暮らし高齢者への声
かけ・見守り活動・おた
がいさまネットにつなぐ
支援合いに加え、地域の
団体と話し合い、地域や
次世代へのつながりに向
け取り組みました。



(左)おたがいさまネットおかもと
会長 岩崎 秀雄さん
(右)おたがいさまネットみなみ
会長 永田 米昭さん

買い物依頼が増え
たり、退院後認知症
になった方の話し
相手をしました。活
動の幅が広がって
います。